

Topics

朝霞台中央総合病院が新築移転 2018年1月の開設を目指し建築工事がスタート 戸田中央医科グループ

戸田中央医科グループ(TMG、中村隆俊会長)の医療法人武蔵野会(中村毅理事長)は15日、東洋大学朝霞キャンパス総合運動場・総合体育館跡地に新築移転する「朝霞台中央総合病院」(村田順院長)の建築工事地鎮祭を、朝霞市の富岡勝則市長をはじめとする関係者の出席のもと同地にて行った。

新病院は2017年秋に竣工、18年1月のオープン予定。JR武蔵野線北朝霞駅・東武東上線朝霞台駅近くに立地する現在の建物からの全面移転により、敷地面積は4247㎡から2万3000㎡へ約6倍に、延床面積も約8400㎡から約2万5000㎡へと約3倍に拡大する。敷地の中央に7階建ての新病院を配置し、その北側に患者用駐車場(271台)などを整備する。北朝霞駅・朝霞台駅からも徒歩10分と通院の利便性も確保されている。

埼玉県の「第6次地域保健医療計画に基づく病院整備」(病床配分)で120床の増床が認められた同院は、「埼

玉県がん診療指定病院」としての機能の充実、高度急性期医療提供体制の強化とともに入院環境などのアメニティー向上

を図るべく、病院の全面移転・新築を決定。現在、一般病床326床を有する病床は446床まで増床するほか、手術室9室、ICU等の特定集中治療室12床、脳卒中ケアユニット9床、てんかん治療センター10床なども整備される。また、最新鋭の検査機器などの導入に加え、医師や看護師など専門職のさらなる人材確保にも取り組み、新病院オープンに伴う通院・入院患者の増加などに備える。

高度急性期医療、がんなどの専門医療を担う、埼玉県南西部医療圏における地域医療の中核となる新病院の完成に期待が集まる。



2018年1月のオープンを予定する新病院